

市民の声を市政に反映させる 市議会議員16人が決まりました

任期満了に伴う今回の多久市議会議員選挙は、定数16に対し、現職13人、元職1人、新人7人の21人が立候補し、一週間の選挙運動が展開されました。
4月24日、午前7時から午後8時まで、市内11の投票所で投票が行われ、即日開票の結果、16人の新議員が決まりました。

投票率等の状況は、下表の通りで、投票率は75・11%となりました。

当選者は、次の方々です。(氏名は届出氏名、○数字は当選回数、敬称略、掲載順は五十音順)

■問い合わせ

多久市選挙管理委員会事務局

☎ 75-4829

投票率等の状況

	当日 有権者数	投票者数	投票率
男	8,087人	5,931人	73.34%
女	9,523人	7,296人	76.61%
計	17,610人	13,227人	75.11%



國信 好永^②
(別府一区)



香月 正則^①
(泉町)



牛島 和廣^④
(多久原)



飯守 康洋^④
(藤川内下)



田中 英行^④
(砂原)



角田 一彦^④
(西山)



古賀 公彦^①
(西町)



興梠多津子^②
(牟田辺)



永井 孝徳^①
(明治佐賀)



中島 慶子^③
(西の原)



中島 國孝^③
(下鶴)



田淵 厚^①
(大畑)



山本 茂雄^④
(筋原)



平間 智治^②
(平和町)



野口 義光^①
(山犬原)



野北 悟^②
(中多久二区)

市長コラム

温故創新

Message for citizen

「がんばろう・日本 パート2」

総力で危機の克服を

市長 横尾俊彦

五月は皐月。端午の節句。鯉幟の季節。市議選を終えた市庁舎そばには市民有志寄贈の鯉幟が泳ぎます。子どもたちの夢の風を吸い込んで、雄雄しく大空に舞い、元気を広めてほしいものです。

さて、今回コラムも震災テーマの続編です。

東日本大震災の被災地では復興への動きが本格化しています。仮設住宅も建設開始。多久市民の皆様からの義援金は四月中旬で千百万円を超え、日赤に送りました。職員派遣支援を気仙沼市や多賀城市の避難所等へ行いました。けれども被災地に残る瓦礫の撤去は容易ではなく、一方で新たなまちづくりが求められています。政府も創造的復興をめざして復興構想会議を始動させました。

それでも福島第一原発事故問題があり、事態収束に九か月ともされ、厳しさが続いています。佐賀県も原発立地県だけに気がかりです。そこで、佐賀県市長会(会長・多久市長)は四月初旬の会議で、原発の安全を高める緊急決議案をまとめ、九州市長会・全国市長会を経て、政府へ提出する計画としました。安全基準や防災区域の再検討、通常時からの県市町と電力会社との情報共有、防災体制充実など、改善や充実が必要です。「最悪の事態を想定し、万全に備える」という危機管理の鉄則に則り、安全安心強化を追求します。

経済への影響も懸念されます。部品調達等の課題で、製造業等に影響が生じています。旅行者のキャンセルも多大との報道もあります。

日本の活力維持のためにも、東日本同様の努力と支援が必要です。「がんばろう・ニッポン」。